

モンゴル国 Mongolia

作成日：2020年9月25日

開発計画等

ミレニアム開発目標に基づくモンゴル国家開発総合政策 2007-2021（2008年）

【全般】

本文書の目的は、モンゴルの主権を保護・強化し、ミレニアム開発目標(MDGs)の達成を通して中所得国になることです。中でも民間セクター主導のダイナミックな経済成長、教育・医療を含む人間開発、科学・技術及び環境の持続的な開発知識ベース経済の形成などの分野が優先となっています。本政策は長期的な開発政策であり、実施戦略やその成果は2つのフェーズに分かれています：第1フェーズ（2007年から2015年）はMDGsの達成に焦点を当てており、第2フェーズ（2016年から2021年）は知識ベース経済への移行に焦点が当てられています。他の政策は本政策に基づいて作られることになっています。

本政策の優先分野として次の項目が挙げられています：MDGsの達成；輸出指向；民間セクター主導かつ高度な技術主導の製造業及びサービス業を集中的に開発すること；鉱物資源開発、地方開発、気候変動への適応能力・対策を促進し、国の生態系の不均衡を止めてそれを保護することにより、持続的な環境を形成すること；など本文書では、主に次の4分野に焦点を当てて、戦略目標を掘り下げています：人間・社会開発；経済成長・開発政策；環境政策；立法及び国家体制に係る開発政策

【環境関連】

上述の「経済成長・開発政策」の中でインフラ開発政策について述べられています。具体的にはエネルギーの輸出、輸送の性能を高めアジアと欧州の近隣諸国との接続する「橋」となるレベルに引き上げ輸送仲介サービスを提供すること、インフラ開発に民間の導入を促進すること、が挙げられています。

運輸交通分野

- 国内における電動輸送車両を組立・生産し、ウランバートルにおける新しい公共交通手段及び街路交通の対応のための交通規制システム「スマート」を導入すること
- 自動車による環境、汚染や街路交通への負の影響を軽減させる。ウランバートルやその他の大都市における車両を液化ガスを燃料とする車両へ替える。車両に対する課税システムについて、車両が自然や環境に与える影響を考慮したものへと改善する。

エネルギー分野

- ナショナルグリッドに接続されていない郡やコミュニティには、再生可能エネルギーやその他のエネルギーを活用して安定的な電力供給を行う。
- 100,000 太陽光ゲルプログラムの枠組み内にて、全ての遊牧民世帯に太陽光か風力エネルギー源を供給する。
- 域内エネルギーシステムの効率性を向上させる。エネルギーフローを規制する最新システムを形成する。
- クリーン石炭技術を使用した大規模電力発電所を建設し、石炭から石油製品を製造するための完全な産業キャパシティに到達する。

「環境政策」の中では、大気・土地・鉱物資源・水・森林などの保全に加え、気候変動対策や廃棄物管理の改善などを実施するとしており、以下の点が含まれています。

- 太陽光・風力・水力やそれらの組み合わせを含む再生可能エネルギー源の活用を促進する。

- 都市部やその他の居住地域において、固形廃棄物の収集・輸送・貯蔵・分類・リサイクル・再利用に係る新技術及び管理方法の統合的な政策を実施し、新規雇用機会を創出する。
- 京都議定書の CDM 枠組み内において、GHG 排出を削減する共同プロジェクトを実施し、排出権をマーケット価格で売る。
- 水資源の適切な利用を確保しそれを保全するために必要な環境を整備する。
- 気候変動や砂漠化への適応能力を向上させ、負の影響を削減する。

参照：

Millennium Development Goals Based Comprehensive National Development Strategy of Mongolia (アジア開発銀行) 「19. Government of Mongolia National Development Strategy